

# 実績報告

## 看護部

- ・外来棟
- ・2階病棟
- ・3階病棟
- ・4階病棟
- ・5階病棟
- ・1階北病棟
  
- ・中央材料室





## 看護部

### 【看護部基本理念】

「人々を敬い、人権を擁護します」である。これまでもこれからも患者の人権擁護を実践するメディカルリーダー的存在になる決意である。

### 【看護部スタッフ数（平成26年3月31日時点）】

	在職者数	平均年齢	平均在職年数
看護師	106名	35.9歳	7.3年
准看護師	10名	48.2歳	19.7年
看護補助	37名	43.0歳	8.7年

### 【平成25年度を振り返って】

平成25年度の最も大きな取り組みは電子カルテの導入と運用であった。入院患者の行動制限に関することや看護のルーチン業務は多様で、準備には労苦を伴った。スタッフの不安や緊張感は否めなかったが、導入後は大過なく1年が経過した。

電子カルテ導入目的である情報の共有、業務の効率化、医療安全対策の向上、サービスの質の向上などに反映させていきたい。

### 【平成25年度重点取り組み事項】

#### ① 入院中の治療・ケア、退院・社会復帰へのコーディネイト役を担う

看護師は患者に最も身近で最も長く関わっており、心身ばかりでなく、多くの情報を収集・提供できる立場にある。そのため、看護師が患者の治療・ケア、退院・社会復帰のためのコーディネイト役を担うべきと考え、取り組んでいる。

コーディネイト役は患者、家族に治療、ケア、社会復帰への動機づけ、参画を働きかけ、院内外の多職種と連携・協働してプランニングしていく。

#### ② 病棟における心理社会療法等の実践

さまざまな心理社会療法を可能な限り患者に提供している。3階病棟は看護師を含めた多職種が心理教育、生活技能訓練（SST）、作業療法（OT）、回想法などを行い、5階病棟は認知行動療法、アロマセラピーなどを提供している。

より多くの看護スタッフが関わるができること、質の高いプログラムを提供できることが肝要であり、指導者の育成やスキルアップのための定期的な院内学習会、院外研修参加が課題である。

現状より強化すべきプログラムに退院前訪問看護があり、入院からスムーズな地域移行が実現できるよう、タイミングを逸することなく積極的に行う必要がある。

#### ③ 医療事故防止

平成25年度南浜病院におけるインシデント・アクシデントレポートの3大要因は①転倒・転落、②薬剤、③暴言・暴力であった。平成26年度は各レポートの分析、改善策の立案と実践、評価を確実にを行い医療事故の減少を図る。

また、その他の事案についても軽視、看過せずに分析を行い、重大事故に発展させないように取り組んで行く。

#### ④ 看護師の採用促進と離職防止

平成25年度実績

	4月新卒採用	4月～ 既卒採用	4時間以上勤務の パート・アルバイト 採 用 者	退 職 者
看 護 師	5名	3名	6名	3名
准看護師				1名
看護補助	2名	2名	0名	4名

看護配置の確保と維持には日々苦勞が伴っている。退職後の補充と配置上の安定が急務である。

看護師採用促進のため、新潟県や企業主催の就職ガイダンスへの参加をはじめ、臨地実習を受けている大学、専門学校などを対象に一段の求職活動に取り組む必要がある。

また、離職防止のため、ワークライフバランスの向上促進、モチベーションアップのための具体策の立案と実行を行っていく。

【平成26年度抱負】

- 精神保健福祉法の一部改正に関する法律施行による医療保護入院者の退院促進措置に係る義務事項の遵守と新潟県北圏域の精神科救急医療当番への貢献。
- 精神科救急病棟申請のための実績確保（措置入院件数、時間外診療件数など）に貢献するとともに質の高い看護の提供。

文 責 大 滝 寛

## 【職 種】

看護師

## 【業務内容】

外来では、通院患者の診療に関する業務を全て行っている。外来予約状況を把握し、診察がスムーズに行えるよう精神・身体面の状態把握に努めている。状態によっては早期受診に結び付けられるよう、総合支援室・デイケア科など他部署との情報共有を行っている。また、糖尿病や脂質異常など内科疾患を有した患者の増加に伴い、検査結果の把握や診療日毎の体重測定、生活習慣などの情報収集をしている。

電話対応も重要な業務の1つで、患者の精神、身体的な不安が軽減できるよう傾聴し必要に応じて医師に情報提供している。適切な薬剤使用や、リラックスの方法を一緒に考え、情報共有することで継続した看護が実施できるよう努めている。

## 【今後の展望】

- ・増加している新規患者や入院相談、臨時受診に柔軟に対応する為、各部署との連携を深めていく
- ・様々なケースに対応するため患者個々の精神・身体的観察を行い、的確な情報提供と看護を行う

文 責 畠山 恵子

## 【実 績】

各月の外来患者数と入院患者数（人）

	延べ患者数	1日平均患者数	入 院 数
平成25年 4月	1,804	85.9	35
5月	1,888	89.5	38
6月	1,726	86.3	28
7月	1,967	89.4	41
8月	2,185	99.3	42
9月	1,823	112.6	38
10月	2,040	92.7	32
11月	1,854	92.7	26
12月	1,813	95.4	33
平成26年 1月	1,742	91.7	37
2月	1,630	85.8	26
3月	1,744	87.2	32

## 【種 別】

精神一般

## 【病床数】

60床

## 【職 種】

看護師・准看護師・看護補助員

## 【業務内容】

2階病棟は特殊疾患入院施設管理加算申請病棟で、内科的疾患を合併している患者、重度身体障害等による寝たきり、或いは歩行困難で車椅子生活を余儀なくされている患者が7割以上入院している。

入院患者の内、経管栄養の患者は約15%、オムツ使用者と寝たきり・車椅子使用患者がそれぞれ約80%を占めている。

内科的疾患を合併している患者には、寝たきり予防の為に車椅子乗車時間を設け、作業療法（以下OT）への参加や個人OTによる機能の維持・向上を図るなど、OTと協働で援助している。心身共にメリハリのある日常生活を送られるよう細心の注意を払いながら、援助・ケアを提供している。

また、輸液や酸素等の身体的な管理や高齢に伴う精神科薬投与量（転倒リスクを踏まえた）の見直しにも注意を払っている。他、経管栄養の管理や、終末期ケアを要する患者には希望に沿った援助を行っている。

## 【今後の展望】

年々、ADL全介助の患者や全身管理、終末期医療を必要とする患者が増えている。肉体的な業務も比例し多忙となっているが、業務の煩雑さによる事故や、笑顔での看護が減少しないようOTを充実させ、患者や職員も楽しみながらの援助・ケアを提供していきたい。

今後も個別看護・OJTの充実・スタッフの体調管理に留意し、安全で安心できる看護・援助を提供できるよう、日々取り組んでいく。

文責 神田由香里

## 【実 績】

特殊疾患入院施設管理加算対象率

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
80.7	76.7	79.3	78.9	81.3	77.9	76.2	83.0	75.8	76.2	78.3	77.5

**【種 別】**

精神科急性期治療病棟 I

**【病床数】**

60床

**【職員数】**

看護師・准看護師・精神保健福祉士・看護補助員

**【業務内容】**

急性期の精神科疾患患者に対し、急性症状の改善と安全を最優先に心身の安静に努め、集中的な治療と看護を提供している。

個別受け持ち制に加え、機能別看護で入院時から担当の看護師と精神保健福祉士が関わっている。本人や家族に対して必要な支援体制の提案や心理社会療法プログラムの選定（病棟内SST、心理教育、回想療法、作業療法）、患者自身による病状と治療経過の評価、家族・患者面談など、担当看護師がコーディネーター役となり、本人とチーム医療スタッフが話し合いながら主体的に治療を進めて行けるよう援助している。

病棟内を4つのエリアに区分し、Aエリア・Bエリア・Cエリア・Sエリアそれぞれにリーダーを配置している。その日の統括リーダーやサブリーダーは主に医師の診察対応など全患者に関わる業務を遂行、各エリアのリーダーは担当する患者の状態把握や必要なケアを行う。その業務と並行し、入院患者の受け入れ、家族対応を行っている。

3ヶ月以内の退院を目標に一人の患者を全員でサポートし、一日も早い社会復帰への援助を行っている。

その他、看護師臨地実習の受け入れ（新潟医療福祉大学、国際メディカル専門学校など）2名の臨地実習指導者を中心とし、学生が伸び伸びと実習できる環境づくりと精神科看護の奥深い学びができるよう努力している。

**【今後の展望】**

- ・クリニカルパスやクライアントパスを活用した多職種医療スタッフでの情報共有と専門的な支援
- ・隔離の早期解除に向けた隔離評価表の策定
- ・入退院のバランスを踏まえた新規入院患者比率のコントロール
- ・新規入院患者退院率60%をキープできるような支援体制の構築
- ・地域における支援者との関係づくりや社会資源の活用とサポート力の強化
- ・精神科救急病棟に向けた思案と実績への貢献

文責 和気 一弘

## 【実績】

## 1. 病棟利用状況

	平成24年度	平成25年度	前年比
入院患者数	269	294	25増
月平均入院患者数	22.4	24.5	2.1増
平均在棟日数	75.3	74.5	0.8減
一日平均入院者数	48	52.1	4.1増

## 2. 各種プログラム参加状況

	開催回数	延べ参加人数	平均参加者数/回
S S T	19	122	6.4
心理教育	48	407	8.4

## 3. 疾患別入院者数 H25.4～H26.3

	統合失調症	うつ病	躁うつ病	認知症	パーソナリティ障害	精神発達遅滞	その他
4月	11	7	1	4	1	0	2
5月	7	11	4	4	1	0	3
6月	8	5	4	1	2	0	3
7月	8	8	3	2	2	0	4
8月	4	4	2	4	0	1	10
9月	5	7	3	1	1	0	6
10月	10	4	2	1	0	0	2
11月	8	3	3	3	0	0	4
12月	10	9	3	1	0	1	3
1月	14	4	3	0	0	1	3
2月	12	2	1	2	0	0	4
3月	10	8	2	2	0	0	2
合計	107	72	31	25	7	3	46

## 4. 新規入院患者入院率と退院率 H25.4～H26.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院率	86.2	91.1	91.1	85.0	87.2	84.4	85.0	78.8	74.4	76.7	80.9	83.0
退院率	58.3	69.2	52.0	60.0	60.8	72.7	82.6	77.2	65.2	71.4	64.7	60.0

**【種 別】**

精神療養病棟

**【病床数】**

60床

**【職員数】**

看護師・准看護師・看護補助員・作業療法士

**【業務内容】**

4階病棟は閉鎖の慢性期病棟で、急性期治療病棟など他病棟の後方支援病棟としての役割を担っている。その為、陽性・陰性症状を有する患者が多く、集団生活へ適応できるよう支援している。

日常生活の援助を中心とし、集団・個別の生活技能スキルの向上と機能回復、及び自立に向けた支援を行っている。

**【今後の展望】**

平成26年4月から精神一般病棟に変更し、患者の希望を現実につげられるよう退院に向けての支援を積極的に行っていく。その為、多職種によるカンファレンスの充実を図り、服薬指導や退院後の生活をイメージした日常生活援助を中心に、その人に合った退院後の生活に向けての支援を行っていく。

**【実 績】**

平成25年度 病棟専任OT活動

平成25年度は主に「隔離患者への個人OT」、「身体障害を呈した患者への個人OT」、「既存の作業療法場面以外の集団作業療法の実施」、「既存の作業療法への参加の促し、及び作業療法の実施」を行った。

**1. 隔離患者への個人OT**

長期隔離患者に対する隔離解除に向けた取り組み（個→集団への促し、隔離によるストレスの緩和）暴力行為等の振り返りを中心とした対応。

2回／週 対象者：8名

**2. 身体障害を呈した患者への個人OT**

行動制限（拘束中）や身体障害の合併などにより機能の維持・向上が必要な患者へのリハビリテーションプログラムの提供。

5回／週 対象者：4名

**3. 既存の作業療法場面以外の集団作業療法の実施**

日中入院患者様が過ごす場を提供することで離床を促し、生活リズムの安定をはかる。

4回／週 対象者：4階病棟の患者様 約20名程度

**4. 既存の作業療法への参加の促し、及び作業療法の実施**

上記3の目的に加え、外注作業や外出活動、調理実習などを提供することで入院生活と社会とを結ぶ一助として行う。

5回／週 対象者：約40名程度

文責 深井真奈美



**【種 別】**

精神一般

**【病床数】**

60床

**【職員数】**

看護師・准看護師・看護補助員

**【業務内容】**

5階病棟は、6室の個室と1室の特別室を備えており、軽度のうつ病や心身症、思春期精神疾患など、緊急避難的な短期休息入院の利用がある。その他に、急性症状の段階的治療により症状の安定した方や長期的な治療・療養が必要な方が入院している。

個々の援助計画の立案や実践・評価の場面でも患者が主体的に参加できるよう業務を行っている。1日でも早い社会復帰と自立を支援していく為に、様々なプログラムを積極的に取り入れ、看護師がコーディネートしながら専門的な分野からの関わりを密にした支援を行っている。入院時から看護師と一緒に退院に向けての目標を立て、病状を評価しながら退院へつなげている。

長期入院患者への退院促進の一環として、生活技能訓練（SST）や退院支援プログラム、地域支援移行事業の利用などがある。加えて生活面や治療に配慮した栄養・服薬等の各種個別指導や、肥満となっている方を対象に体重管理を主として集団栄養指導もプログラムとして行っている。他に、ストレス緩和を目的としたアロマセラピー、心理教育、認知行動療法などのプログラムの提供も行っている。又、多職種による医療チームで患者・家族をサポートしていけるよう努力している。

**【今後の展望】**

- ・退院後の生活をイメージできるよう入院時から医療チームと連携して行く
- ・看護師の適切なコーディネート力の強化と、患者、家族への支援内容の提供
- ・クリニカルパスの実施評価とクライアントパスの提供
- ・個々の患者に応じたプログラムの提供と新たなプログラムの導入

文責 柴田 実子

## 【実績】

### (1) 入退院数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	6	6	3	9	12	9	8	5	5	10	4	5
退院	8	8	15	3	9	13	15	8	3	5	7	8

### (2) 各種プログラム参加状況（1回あたりの平均参加人数）※集団栄養以外はクローズドグループ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S S T (1回/週)		5.5	4	3.2	3.2	2		2	4.2	4.8	5.3	4.3
心理教育 (全8回)	5.1		3.2		4.6		5.1		5.5		4.9	
認知行動療法 (1回/週)	2.5	3	3.3	3	3	1.6	3.6	3.3	4	3.3	3	3
集団栄養 (1回/月)	13	13	9	15	4		11	14	14			8

### (3) 退院時アロマ提供人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アロマセラピー (全3回)	3	7	3	2	4	2	3	3	1		2	2

## 【種 別】

精神療養

## 【病床数】

45床

## 【職 種】

看護師・看護補助員・作業療法士

## 【業務内容】

比較的安定した慢性期の精神症状を有する患者を対象に、社会参加や社会復帰に向けた支援を行い、日常生活で介助を有する患者には快適で穏やかな療養生活を提供し、退院へのアプローチを行っている。その一環として日常生活の中に毎日作業療法を取り入れ、文化活動・体育活動・調理実習・外出活動などの集団プログラムを通じ、病状の安定化、対人関係能力の維持向上、生活リズムの回復、気分転換などを図っている。また、「日常生活自立プログラム」と題し、服薬や健康管理、整容や金銭管理など、小グループで学ぶプログラムを実施している。

患者の高齢化も影響し、ADLの低下や認知機能の低下が著明な患者が多い。その為、転倒に対するサポートと危機管理に加え、身体症状があっても自発的に訴える事をしない、または出来ない患者に対して精神状態の変化のみならず身体面への配慮と注意深い観察を行っている。

## 【今後の展望】

入院期間が長期化している患者が多く、改めて退院に向けたアプローチを行い、少しでも退院に向けたステップアップが出来るようにしていく。その為、現在は他職種との定期的な「退院支援カンファレンス」を計画中であり、カンファレンスで具体的なアプローチ方法を話し合い、家族や他部署および地域との連携を図りながら退院へと繋げていきたい。加えてADLの維持向上と患者の自己対処能力や危機回避能力を高められるよう声掛けと環境整備を繰り返し行い、転倒のリスクを軽減できるようにする。

文責 川島 浩也

## 【実 績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
退院患者数	1	2	1	1	1	0	1	1	0	2	1	1
転入患者数	3	1	2	5	0	2	0	2	1	2	2	2
転出患者数	1	1	2	2	0	1	0	1	1	1	2	2
1日平均患者数	43.8	44.3	43.2	43.8	44.7	44.7	44.4	44.6	45	44.6	44.9	43.2

**【職 種】**

事務員

**【業務内容】**

医療・衛生材料の発注と物品の検品、及び請求書等、各種書類の整理・管理と中央材料室設置のオートクレーブを用いた滅菌ガーゼの作成、医療器材の滅菌消毒を行っている。

患者の介護用品を総合的に受注し、医療・衛生材料と同様に整理・管理している。また、院内設置のAED点検と管理、軽微な医療器材の修繕も行なっている。その他、医療器材等の関係職員への教育研修等を立案している。

**【今後の展望】**

医療現場に診療材料の情報を提供し、医療の質の向上とコスト削減に努める。また、関係職員と連絡を取り合い、患者が日常生活をつつがなく過ごせるよう介護用品の提案を行う。

文 責 中村三枝子